

396

唾液腺シンチグラフィによる口腔乾燥症の検討

伊藤秀臣、山口晴司、川井順一、才木康彦、石川昌子、太田圭子、富永悦二、日野恵、池窪勝治（神戸市立中央市民病院 核医学科）、老木浩之、大村正樹、山本悦生（同耳鼻科）

唾液腺シンチグラフィを施行した口腔乾燥症40例について検討した。対象は男性7例、女性33例で年齢は24～77歳であった。唾液腺シンチグラフィの方法は ^{99m}Tc -pertechnetate 187MBqを静脈内投与後20分間撮像した後、唾液分泌刺激を行いさらに15分間の撮像を行った。経時画像にて耳下腺、顎下腺に関心領域を設定し、その時間放射能曲線について検討した。また20例については、同時にstandardを計測し、各唾液腺の摂取率を算出することにより定量的評価を試みた。40例中26例で何らかの機能低下が認められた。口腔乾燥症において唾液腺シンチグラフィは有用であり、定量化によりさらに詳細な評価が可能であることが示唆された。